

川崎市の学校給食の始まり

昭和初期は、不況の影響による家庭の経済的困窮により、食事を十分に食べられない児童が多くなり、健康状態は良くありませんでした。やがて、学校に弁当を持参できない児童が増え、欠席者が増加するという憂慮する状況になりました。

1932(昭和7)年、当時の文部省は、児童の栄養状況の改善と就学を奨励するため、訓令で「学校給食臨時施設法」を公布して、給食の推進を図りました。

1938(昭和13)年頃、川崎小学校では試験的に体が弱く、病気にかかりやすい児童を対象に学校給食を実施しました、この川崎小学校の給食が、川崎市では最初の給食だと言われています。

1940(昭和15)年には、文部省から次のような「学校給食奨励規程」という訓令が出されました。

今般文部省令第18号ヲ以テ学校給食奨励規定、訓令相成リタル処右ハ小学校児童体位ノ現状ニ鑑ミ、学校ニ於テ適切ナル栄養給食ヲ行ヒ児童ノ栄養ヲ改善シ体位ノ向上ヲ図ラントスル趣旨ナルニ付、之ガ実施ニ関シテハ訓令ノ各条項ヲ遵守スルノ外、左記事項ニ留意シ訓令ノ趣旨徹底ニ遺憾ナキヲ期セラレ度、此段依令通牒ニ及ビ候

戦争中の学校給食

1941(昭和16)年には、太平洋戦争が始まりました。この頃から川崎市はもちろん、国内の食糧事情がひっ迫したため、給食の実施が困難になりました。

学校の校庭には菜園が作られ、その面積が広がっていきました。1944(昭和19)年4月から大都市の児童に対して、決戦非常措置として学校給食が実施されましたが、学童集団疎開に伴い夏には廃止されました。